

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の（改善策等）
1 総合学科の特長を活かし、主体的、対話的で深い学びを取り入れた授業実践を通して、個々に応じた進路実現を目指す。	① 総合学科の特長を活かし、生徒の多様なニーズに合わせた科目選択や体験活動を通して、生徒の進路実現を図る。	総合学科として、科目選択や様々な体験が生徒の進路実現に意義あるものとなっている。 (ア) よくあてはまる (イ) ややあてはまる (ウ) あまりあてはまらない (エ) あてはまらない (ア)+(イ)の割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒 85.5% B 保護者 87.3% B	本年度は、コロナ禍のため、予定していた進路関係の行事等が中止となり、大きな影響を受けた。その中で、1年次生には、職業選択に焦点を合わせた講座開催やオンライン企業説明会を実施した。また、2年次生のインターンシップは中止せざるを得なかったが、この期間を利用し、3年次での就職活動をシミュレーションする事前学習を実施した。更に、従来の上級学校見学会や地元の企業紹介等で進路選択意識を高めた。 2年次生保護者対象の進路説明会を開催して、3年になってからの指導方法を説明した。生徒と保護者、学校の三者が協力して、進路を考えていくことを確認した。 次年度は、進路選択と科目選択を体系的に考えられるよう、内容を検討していきたい。
	② 学習習慣の定着と学びやすい学習環境を整備することによって、生徒がより主体的に学習しようとする意欲の向上につなげる。	集中して授業に取り組むことができるようになったと感じる生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	93.4% A	毎朝始業前の「マナトレ」は3年目となり、基礎学力の定着と1日の学習の準備として成果をあげている。また、教室での学ぶ姿勢を示す「ルール5」、「マナー3」の掲示で規範を示すとともに、指導の拠り所にもなっている。これらが奏功し、前期の92.9%から、後期はさらに向上して、93.4%の生徒が達成感を得ている結果になった。 このアンケート項目は、2年間「A」評価を達成している。重要な観点ではあるが、来年度はGIGAスクール構想を踏まえた取組への変更を考えている。
	③ 毎時間の授業において、学習目標、流れを明示し、振り返りをさせることで、学習内容の理解度と達成感を高める。	授業が分かりやすいと回答する生徒の割合が A 90%以上 B 85%以上 C 80%以上 D 80%未満	92.2% A	前・後期の授業評価アンケート後に、その集計結果から全教員が自身の課題と改善のための方策を考える機会を設けている。また、今年度は全教員対象に、「校内研究授業」を実施し、事後は授業者、参観者による授業の課題についての意見交換を行っている。以上の取り組みから、本校での授業改善は確実に進んでおり、この項目に関する生徒の満足度は前期の89.8%から、後期の92.2%に向上した。 今年度後期において「A」を達成したが、ICT機器の効果的な使用等に関する研究や授業改善を進め、さらに「分かりやすさ」を追求していく。
	④ 個別進学指導や朝学習（マナトレ）、模擬面接等の充実を図り、個々の生徒に応じた進路志望を達成する。	ア 国公立大学合格者数5名以上 イ 私立大学合格者数30名以上 ウ 就職内定率 100% ア・イ・ウの3指標のうち A 3指標すべてを達成 B 2指標を達成 C 1指標を達成 D 3指標とも達成できず	ア 3名 イ 20名 ウ 100% C	四大志望者に対しては、チューター制を実施し、補習と個別学習指導を行った。国公立大学3名の合格者（琉球大・石川県立大・公立小松大）を出すことができた。特に、大学入学共通テストを受験し、前期一般試験で国公立大学2名が合格したことは大きな実績である。四大志望者24名中、23名が四大へ進学する。また、コロナの影響下でも、企業研究資料のオンライン化等、早期からの企業選択が功を奏し、1月時点で、就職志望者は、77名が内定し、内定率100%達成している。 進学志望者においては、模擬試験の結果を踏まえ、各教科で取り組むべき問題点を分析し、授業や補習で弱点の補強を行う。また、就職志望者においては、マナトレや校内模試を通して、就職試験で弱点となっている分野を分析し、補充対策を検討する。
学校関係者評価委員会の評価	・コロナ禍という状況にもかかわらず、就職に関して、内定率100%を達成したことは立派なことであると感ずる。できる限り、個々の生徒が志望する企業に就職できるよう尽力いただきたい。 ・国公立大学志望の生徒の指導体制もさらに充実させていってほしい。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	・今年度はコロナ禍で、1年次生は企業見学、2年次生はインターンシップをそれぞれ中止した。来年度は新型コロナウイルス感染状況を見ながら、実際に生徒が企業について学ぶ機会を復活させたい。また、3年次生に関しては、今年度導入したオンラインによる企業研究を継続し、生徒と企業のマッチングの精度をさらに高めたい。 ・四大志望者に対するチューター制の補習や個別指導が功を奏し、一般入試も含めて国公立大学へ3名の合格者を出すことができた。来年度も、教員の大学入試研究も含め、この取り組みを継続し、個々の生徒の進路実現を図っていきたい。			

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の（改善策等）
2 部活動や体験活動を柱に、生徒のコミュニケーション能力や規範意識、自律心の向上を図り、人間力の育成に努める。	① 登校指導や街頭指導、地域に出向いての活動等でしっかりと挨拶ができるよう指導を行う。	自ら進んで挨拶ができると回答した割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒 78.9% C 保護者 80.8% B 教員 67.5% D	今年度は新型コロナウイルスの影響で、生徒会や運動部による朝の挨拶運動が十分実施できなかったものの、毎朝の登校指導を通して、しっかりと挨拶できる生徒は増えてきている。校舎内でも部活動の生徒を中心にしっかりと挨拶しており、自発的な挨拶が浸透しつつある。今後、状況を見て生徒会や部活動での挨拶運動も実施していきたい。また、集会やホームルーム等において、自発的な挨拶が習慣化するように指導していきたい。
	② 交通安全教室や街頭指導等を通して、交通ルールを守る指導を行う。	交通ルールを守って自転車に乗車していると回答した割合が A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	生徒 88.7% B 教員 45.0% D	今年度は、交通安全教室（1年次生）、能美署員から放送による交通安全の呼びかけ（全校）、自転車ルール・マナー検定の実施、本校イーグル隊と能美署が協力しての交通安全運動、交通安全標語の作成など、様々な機会をとらえ、交通安全に対する意識の醸成を図ってきた。県警による交通違反件数も昨年度より減少している。しかし、毎日の街頭指導において、自転車での右側通行やイヤホンをつけての走行が少数ではあるが見受けられる状況である。今後もグッドマナーキャンペーンやPTAとの合同一斉指導や学年集会などを通じて交通安全への意識を高めていきたい。
	③ 部活動を通して、生徒の自律心を向上させ、人間力を育成する。	部活動に対し、満足感や達成感を感じている生徒の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	70.3% B	前期68.1%からの微増であった。学年別では1年77.7%、2年81.0%、3年54.3%であった。やはり、最後の大会がなくなってしまった3年次生は満足感が低いが、1、2年次生では大会の縮小などがあってもかわらず、高い数字であった。今年度は目標を持って取り組んでもらえるように「部活動目標設定シート」、「振り返りシート」を作成したが、大会がなくなったことや、夏休みの縮小によりあまり活用されなかった。来年度はもっとこのシートを利用し、満足感や達成感を感じてもらいたい。
	④ 「学校いじめ防止基本方針」をもとに、いじめの問題に学校が一丸となって組織的に対応する。	いじめの未然防止に取り組み、発生時には必要な情報を共有し、迅速な対応をする教職員の割合が A 100% B 90%以上 C 80%以上 D 80%未満	85.0% C	6月、11月、2月にいじめアンケートを実施し、3件いじめの認知をおこなった。管理職、担任、学年団、生徒指導が連携し迅速に対応し、現在は解消し、経過を見守っている。中間評価よりは改善したが、C評価は教職員のいじめに対する意識が依然として不十分であることを示している。運営委員会や職員会議を通じて職員がいじめ未然防止や情報共有について徹底を図る。今後もいじめは必ずあるものと認識し、生徒への注意喚起を行うとともに、発生時には迅速かつ適切に対応する。
学校関係者評価委員会の評価		・いじめに関して、精神医学の分野でマイクロ・アグレッションという言葉がある。日常生活の中で行われる何気ない偏見や差別のことである。よって、加害者に対する指導はもちろん重要であるが、周囲の生徒の態度も重要になってくる。直接の加害者以外の生徒への指導もしっかり行っていただきたい。		
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策		・本校ではいじめに関するアンケートを学期ごとに1回の年3回実施している。直接の被害者だけでなく、自分以外の生徒が被害にあっている情報も書き込むようになっている。単なる傍観者ではいられない善意の生徒は増えており、書かれたことに関しては、全て確認を行っている。 ・いじめの未然防止と発生時の情報共有に関する教職員のアンケート結果はCである。特に、コロナ禍の状況において、新型コロナウイルス感染症の感染者やその家族、濃厚接触者等に対する偏見や差別は許されないことについての指導とその徹底を行う。また、情報共有に関しては、全職員での共有の機会をしっかりと確保していく。		

令和2年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

重点目標	具体的取組	実現状況の達成度判断基準	集計結果	分析（成果と課題）及び次年度の（改善策等）
3 SCH（スーパー・コミュニティ・ハイスクール）として、地域連携の充実や学校情報の積極的発信、学校業務の効率化を図り、保護者や地域に信頼される学校づくりを推進する。	① 地方自治体の行事や社会貢献活動への参加など、地域と連携した活動をより推進する。	地域の活動に参加する生徒の満足度の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	76.7% B	今年度は地域活動に参加する生徒の割合ではなく、活動後の満足度をアンケートで質問する予定であったが、新型コロナウイルスの影響で地域活動が全くといっていいほどなくなってしまった。能美市との地域連携として、生徒会など一部の生徒を対象に男女共同参画共同学習会や能美市議会での模擬議会などが行われた。これらの活動での事後アンケートでは「勉強になった」や「興味を持てた」などの回答が多かった。男女共同参画については成果発表での発表を全校生徒に対しても行い、学習会で学んだことを全校生徒に少しは還元することができたと思う。次年度は、事後アンケートだけでなく、事前に勉強会を行うなどして地域連携活動への取り組み方を改善し、生徒の満足度をあげていきたい。
	② ホームページの更新や学年や各課からの通信、メール配信を随時行い、学校の教育活動を積極的に発信する。	広報活動（学校ホームページ、学年・各課からの通信、メール配信）を通して、学校の取り組みがよくわかると回答する保護者の割合が A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	78.2% B	前期評価より5ポイント程割合が下がり、B評価となった。今年度は各担当部署でホームページの更新やメール配信をできるシステムを構築することができ、ホームページ更新、メール配信の回数も増え、ホームページアクセス数は昨年度の3倍になった。一方で行事等の動画の配信や、オンライン中継、紙媒体でのきめ細やかな情報発信を望む声もあり、情報発信の方法、内容ともに、検討とより一層の工夫が必要と考える。
	③ 教員が担当業務に応じてタイムマネジメントの意識を高め、学校業務の効率化を推進することで、勤務時間外の労働時間を削減する。	時間外勤務が月平均45時間以上であった教員の月平均人数が A 10人未満 B 15人未満 C 20人未満 D 20人以上	10.8人 B	昨年度、時間外勤務が45時間以上であった教員の延べ人数は203人で月平均にすると、16.9人であった。今年度は延べ人数で130人、月平均にすると10.8人で昨年度の約64%で、約35%減少した。時間外勤務の月平均時間は昨年度40.3時間、今年度は31.2時間と、この数値も減少した。石川県教育委員会では今年度末までに、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指している。本校の職員はタイムマネジメントの意識を高め、教育の質を落とさずに、業務の効率化を図っていたと思われる。また、本校では、11月～3月に時間外勤務が月80時間を超えた教職員はいなかった。これまでの月2回の定時退校日の設定、リフレッシュウィーク・学校閉庁日の設定や平日夜及び土日・休日の留守番電話による対応など県内一斉の取組を継続する。また、校内業務に関しては、各課長が課員の仕事量や勤務時間に注意し、特定の教職員が長時間勤務しないよう配慮したり、ある課の繁忙期には課間の人員の配置変更を行ったりし、業務の平準化を行う。
学校関係者評価委員会の評価	・ホームページへのアクセス数が昨年度に比べ3倍になったにもかかわらず、「広報活動（学校ホームページ、学年・各課からの通信、メール配信）を通して、学校の取り組みがよくわかる」と回答する保護者の割合が減少したとのことだが、ホームページに動画を載せるなど、生徒の活動の様子がよりわかる工夫をしてはどうか。			
学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策	・保護者が求める学校からの発信・連絡方法は様々である。ホームページの充実だけではなく、紙媒体での学年通信等も求める保護者も一定数存在する。発信・伝達媒体は特定のものに片寄らないようにしていきたい。また、紙媒体での学年通信等を生徒に渡した時には、そのことを伝えるメール配信を保護者に行い、保護者が知らないということはないようにしていきたい。 ・ホームページの内容に関しては、他校のものも参考にして、中学生にもアピールするようなものにしていきたい。			